

「国語」・「算数」の力と学習の様子

～『令和5年度 全国学力・学習状況調査(2023.4.18)』の結果から～

今年度は、国語、算数の調査が行われました。どちらの教科にも、学校での授業の工夫や家庭での学習支援の効果が表れています。

◎は良いところ ▲は伸ばしたいところ

★国語について

①「学習指導要領の5内容における結果から」

◎「読むこと」の領域で、少しずつ力が付いています。

特に、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる力が少しずつ付いています。複数の資料や文章を読んで分かったことを整理したり、分かったことの中から既有の知識や体験などに結び付くものを考えたりしながら自分の考えをまとめる活動に取り組んできた成果が表れています。

②「特に正答率の高かった問題」

◎目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題ができています。

③「課題として」

▲図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。

どのような図表やグラフなどを用いると分かりやすく明確に伝えることができるかを、算数科等とも関連させて考え、文章で説明を加えた方が分かりやすい部分はないか、といった観点で説明全体を見直していく学習を行っています。

★算数について

①「学習指導要領の4領域における結果から」

◎「データの活用」の領域で、少しずつ力が付いています。

特に、表から、条件に合う数を読み取ることができています。表を読み取るとき、どの項目や数に着目して結論を導き出したのかを説明するよう心がけている成果が表れています。

②「特に正答率の高かった問題」

◎伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができています。児童自らが数量の間にどのような関係が成り立つのかを予想したり、なぜそのような関係が成り立つといえるのかを表現したりしている成果が表れています。

③「課題として」

▲図形の構成の仕方を観察して図形について判断することに課題があります。

特に、台形や正三角形の意味や性質についての理解や、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題があります。

まずは四角形や三角形の定義や性質を把握し、次に示されたいろいろな図形について分類する活動を行い、何に着目して分類したのかを、図形の意味や性質を基に一人一人が説明できるようにする学習を行っています。

★学習や生活について

◇よい傾向 ◆心配な傾向

《家庭や地域に関すること》

神山小学校では、

◇ほとんどの児童が、朝食を毎日食べています。

◇毎日、多くの児童が、決まった時刻に寝たり起きたりするなど、規則正しい生活をしています。

◇地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童の割合が、昨年度よりも高くなっています。

◆日本や地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う児童の割合が低い傾向にあります。

《学校や学習に関すること》

神山小学校では、

◇多くの児童が、学校に行くのは楽しいと思っています。

◇授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童が多いです。

◇多くの児童が、国語の勉強が好きで、国語の授業の内容がよく分かると思っています。

◇新聞（ふくe刊を含む）をほぼ毎日読む児童の割合が高いです。

◇多くの児童が、自分と違う意見について考えるのは楽しいと思っています。

◇家で平日（月～金曜日）に、タブレットなどのＩＣＴ機器を、勉強のために1時間以上使っている児童の割合が高いです。

◇学校が休みの日に、2時間以上勉強している児童の割合が高いです。

◇ほとんどの児童が、学習の中でタブレット端末などのＩＣＴ機器を使うのは勉強の役に立つと感じています。

◆家で、自分で計画を立てて勉強をしている児童の割合が低い傾向にあります。

◆困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できるという児童の割合が低い傾向にあります。児童が気軽に相談できるような環境作りに努めていきます。

◆英語の勉強が好きだと思ふ児童の割合が低い傾向にあります。

◆学校の授業以外で、英語を使う機会がある児童の割合が低い傾向にあります。

ＩＣＴ機器の利用も含め、校内外で児童が英語活動に意欲的に取り組めるように学習方法を工夫していきます。

《自分自身に関すること》

神山小学校では、

◇ほとんどの児童が、人の役に立つ人間になりたいと思っています。

◇多くの児童が、自分には良いところがあると思っています。

◇将来の夢や目標をもっている児童の割合が高いです。

《学力面との関係で分析すると》

全国的にみて、

○読書が好きな児童ほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

○課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。